

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

今 井 智 子

内 田 信 也

宇 野 彰 準

勝 木 準 子

倉 内 紀 子

倉 知 雅 子

佐 藤 睦 子

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

関 啓 子

玉 井 ふ み

長谷川 賢 一

春 原 則 子

深 浦 順 一

藤 原 百 合

水 田 秀 子

矢 守 麻 奈

樹木の緑が深くなるこの頃は、日本言語聴覚学会が開催される時期でもあります。本年も言語聴覚研究の歩みを一歩前に進める演題が多数発表されることと思います。

本誌は、言語聴覚障害の基礎と臨床に関する学術専門誌であり、健常な言語・認知・コミュニケーションの発達と加齢変化、各種の言語聴覚障害、認知機能障害や摂食嚥下障害の原因、病態、評価・診断、治療、QOL と参加、AAC、言語聴覚士教育など幅広い領域を対象としています。今号には、アルツハイマー病の言語機能に関する研究と、低出生体重児の注意機能に関する研究が掲載されていますが、いずれも研究があまり進んでいない領域の重要テーマを取り上げており、新規性が高い知見が得られています。また、リッカム・プログラムによる吃音治療に関する症例報告は臨床への有用な示唆を与えてくれるものと思います。今号は「現場、最前線」が充実しており、震災地、摂食嚥下臨床、国際学会の現場から3篇の報告がなされました。東日本大震災の復興地区における言語聴覚士の訪問リハビリテーションは貴重な実践報告であり、今後、本分野に「災害言語聴覚療法」を構築していくうえで重要な資料になるものと思います。また、加齢による筋量および筋機能の低下を呈するサルコペニア患者に対する栄養面での介入報告は、高齢社会における言語聴覚療法の方向性の一角を示しています。Asia Pacific Conference of Speech, Language and Hearing はアジアと環太平洋の国々の言語聴覚士が集う国際学会であり、第10回大会は来年9月にわが国で、城間将江教授(国際医療福祉大学)を学会長として開催されることになっています。

言語聴覚分野の知識・技術は3年経てばその半分が古くなるといわれますが、本誌の内容を見ますと、その感を強くします。本分野の研究の多くは、そのシーズ(種)を臨床現場で得ています。日々の臨床をリサーチマインド(科学的探究心)をもって実践することが新たな知識と技術の発見につながるものと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第13巻 第2号)2016年6月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2016, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)